

[illegible]

成田市立公津の杜小学校 5年・6年

えださわ れね
枝澤 怜音 さん

世界の共通点

一血型別の歴史

現在、血液型にはA型・B型・O型・AB型の4種類があります。ですが少し前まではA型・B型・O型の3種類しかなかった。1900年、当時医学生だったカール・ラント・シュタイナーはA・B・O式血液型を発見。いろいろな血が混ざりますが、一応として、A型はA抗原、B型はB抗原、O型は両方を持っていません。そのことから、当時の人々に、O型をO(ゼロ)型だと間違えられる人も現れました。そのような間違いを避けるためにO型に改称されたという経緯があり、2年後、シュタイナーの発見の研究によって、AB型が発見されました。

世界の血液型の割合を表したグラフです。O型の割合が41.22%、A型は29.41%、B型は23.13%、AB型は6.24%となっています。全体的に見てみると圧倒的にO型の割合が多くなっています。O型しかない国もあるとか…。それに比べてAB型は6.24%。グラフの色の割合を見ただけでも一目瞭然と分かります。



割合は少ないですが、もし万が一、事故などにあい、輸血をしなければならない状態に陥った際、AB型はどの血液型からも輸血することが出来ます。そのため、AB型の割合が少ないからといって輸血が難しい…などと言った事は無いようです。いろいろな国によって血液型の割合は違いますが、その割合の違いにはなにが理由や規則性があるのでしょうか。

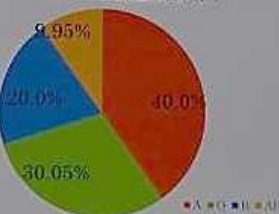
まずは私が暮らしている国、日本から見て行きたいと思います。

右側にあるグラフは日本の血液型割合を表したグラフです。

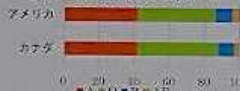
上の世界の割合を表したグラフを見るとO型が圧倒的に多く、AB型がとて少ないですが日本はどうでしょう。グラフを見てみると、A型が多いことが読み取れます。O型も30.05%とやや多いことがわかります。

AB型は世界の割合とあまり変わらず9.05%と、10%にも満たしていません。世界のグラフでも日本のグラフでも触れられていない割合が20%近いB型は他の国でもその程度なのではないでしょうか。また日常生活でも色々な人に少ないと言われていたであろうAB型は他国でもそう言われているのでしょうか。大陸ごとに3〜5カ国の代表となる国を決め、その国々を調べグラフにしてみました。

日本の血液型割合 (%)



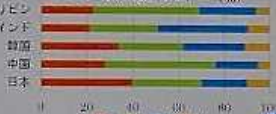
北アメリカの血液型割合 (%)



北アメリカ

A型とO型の割合が比較的多い。AB型は全体的にみると圧倒的に少ない。

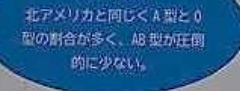
アジアの血液型割合 (%)



アジア

他の国に比べると、B型の割合が少ない。AB型は他の国と同じく少ない。

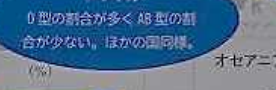
ヨーロッパの血液型割合 (%)



ヨーロッパ

北アメリカと同じくA型とO型の割合が多く、AB型が圧倒的に少ない。

アフリカの血液型割合 (%)



オセアニアの血液型割合 (%)



南アメリカの血液型割合 (%)



南アメリカ

ダントツでO型の割合が多く、AB型がほとんどない。

オセアニア

主にA型とO型の割合が多く、B型がかなり少ない。

まとめ

どの国も「O型とA型の割合が多く、B型の割合が圧倒的に少ない」ことがわかる。グラフからわかったことをまとめると、大陸ごとというよりは、世界にその土地特有の割合があるのかもしれないと私が調べたものからは読み取れる。大陸ごとに代表国を決める際、違う国を選んでいたら全然違う結果が得られていたのだろうか。やはりいまだに謎が多いとされている血液型は調べてみるとより面白いと思った。今回、血液型の割合について調べて見て、その結果から今後活かせるような知識や何かに繋げていける事はあまり得られなかった。けれども、調べたからこそ自分の中で血液型が差別に関わっていたりするのかなどといった新たな疑問が生まれ、調べてグラフを作りまとめてみたいと思った。(参考文献 <http://hokanko.nond.jp/wordpress341/> / だれも知らない血液型性格診断の謎に挑む)

<議長賞>

成田高等学校附属中学校

3年

あんどう ひろの
安藤 寛乃 さん

令和元年度成田市統計グラフコンクール 特別賞

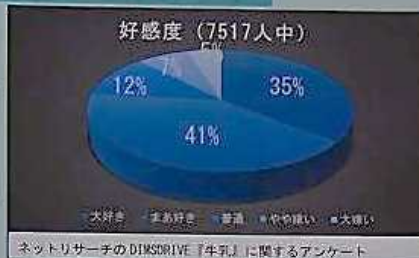


令和元年度成田市統計グラフコンクール 特別賞

日本人からみた牛乳について

1、牛乳の好感度

まず、牛乳の好感度について調べてみた。大好きな人とまあ好きな人の合計は76%と、かなり高いことが分かった。また、年齢別で見るとと男性の場合は20代の人に人気があり、40代の人にはあまり人気がなく、女性の場合は20代の人に人気があり、30代の人にはあまり人気がないことが分かった。



2、牛乳を飲む頻度

次に牛乳を飲む頻度について調べてみた。週に1回以上飲む人は、76.2%と高いことが分かった。また、年齢別で見ると男性は60代の人が飲む頻度が一番高く、40代の人が一番低く、女性は50代の人飲む頻度が一番高く、20代の人が一番低いことが分かった。

では、ほぼ毎日飲む人の一日に飲む量はどのくらい？



3、一日に飲む量

一日に飲む牛乳の量は、平均的に見て100mL～200mLであることが分かった。また、1L以上飲む人もいることが分かりとても驚いた。

また、調べたところ、一日に飲むのにちょうどいい量はコップ一杯分の約200mLであり、それ以上飲むと血液の粘度が「上がり血液循環が悪くなったり、IGF-1というホルモンの影響で、がんになる可能性が高くなってしまふのだそうだ。よって、丁度いい量飲むことで、腸内環境を整えるなどの効果が期待できることが分かった。

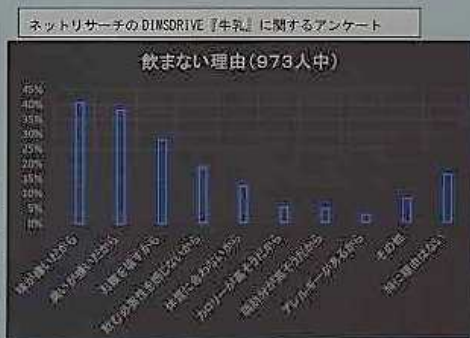
では、牛乳を飲まない人の理由は？

4、牛乳を飲まない理由

牛乳を飲まない人の多くは、味または臭いが嫌いだからという理由であることが分かった。また、カロリーが低そうと考えている人もいるようだ。調べてみると100mLで67kcalであり、ジュースの中でもカロリーが低いオレンジジュースの84kcalと比べても低いことが分かった。さらに、脂肪分についても調べてみたところ、次のような牛乳の種類と脂肪分の量がわかった。

種類	詳細
生乳	生乳 100% で均質化処理の後に加熱殺菌したもの
特選生乳	特別に許可を受けた施設で作られた一般の牛乳よりも成分的に濃厚なもの
成分調整生乳	生乳から乳脂肪分や水分、ミネラルなどの一部を除去して成分濃度を調整したもの
濃縮生乳	乳脂肪分を減らして、0.5%以上1.5%以下にしたもの
無脂肪生乳	乳脂肪分を0.5%未満にしたもの

自分の好みなどに合わせて飲み分けると良いことがわかった。
また、脂質分が多い牛乳のほうがおいしいといけこともわかった。



日本人は全体的に牛乳が好きな人が多いことがわかりました。また、間違った知識を思い知らずに牛乳を飲む人が増えるといいなと思いました。

＜統計研究会長賞＞

成田高等学校附属中学校 3年

木村 百花 さん